

### 排出支援・収運・処理の一貫体制



郊外の高台に建つリサイクル館

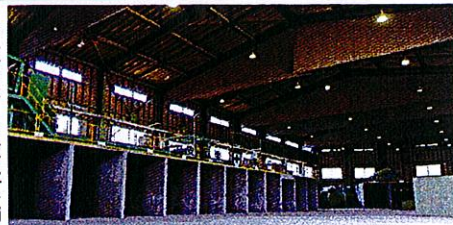
# 長野市に中間処理拠点

## 全長80mの選別ライン

### カワサキ商会／カワサキ環境

産廃収集運搬のカワサキ商会 千蕨市川市 川崎秀樹 会長、047・369・6126 はグループ新会社のカワサキ環境を通じて、長野市内に中間処理施設「リサイクル館」を開業した。市郊外の約700平方メートルの敷地に建つ延床面積約3000平方メートルの建屋内に、破碎、選別、圧縮、結束などの機器装置と展開・積替え保管ヤードを設けた完全屋内型施設だ。

既設の中間処理施設を同業者からM&Aで取得したもので、総処理能力は日量254・8トンの4000立方メートル以上の保管が可能だ。処理品目はゴムくずを除く安定4品目と木くず、紙くず、繊維くずとなっている。選別ラインは全長80メートルに及び、トロンメル、風力選別機、手選別コンベヤ、磁選機などで構成し、高い精選別・リサ



処理・保管スペースを屋内に置いた全天候型施設

イクルシステムを確立している。現地は長野自動車道更積インターから13・5キロメートルに位置し、関東甲信越、北陸、東海からのアクセスが可能

だ。長野県は群馬・埼玉・新潟・富山・岐阜・静岡・愛知の8県に隣接し、産廃の集荷と処理後物の搬出拠点として期待される。カワサキ商会グループは首都圏を中心に収集運搬を手掛けるカワサキ商会、積替え保管と大型輸送のカワサキ物流(埼玉県春日部市、渋谷光博社長)総合コン

サルティンクのカワサキ総合研究所で構成している。今回のカワサキ環境の中間処理施設の稼働で、産廃のコンサルティンクから収集・運搬、処分までの一貫処理の受注体制を可能にし、排出事業者安心・安定のワンストップサービスを提供していく。カワサキ環境の新社長に就任したカワサキ商会の川崎秀樹会長は「内製化後もコスト負担は変わらないが、事務の簡素化と産廃の取扱量の増加を期待している」と語っている。